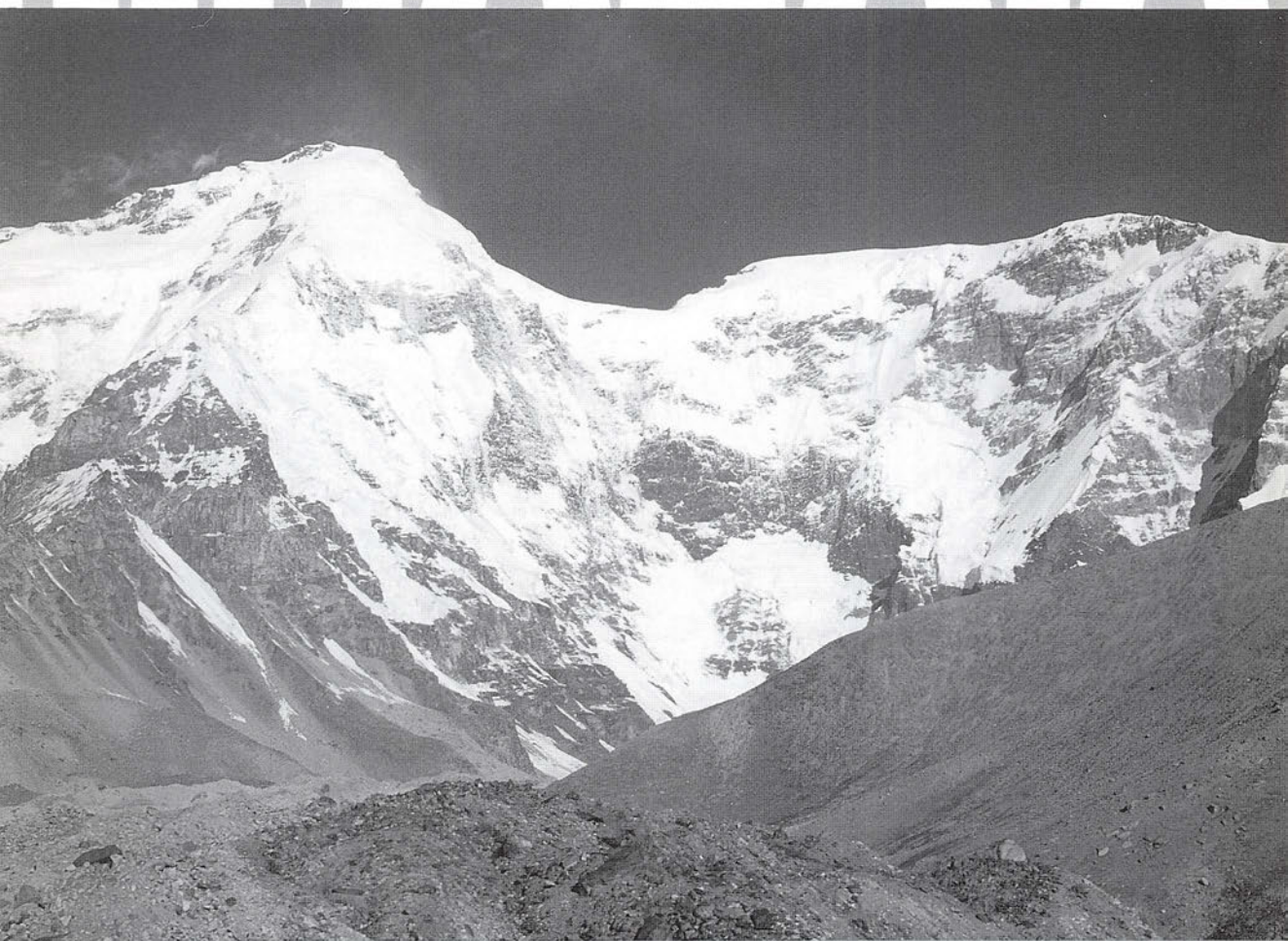


HIMALAYA

ヒマラヤ

No. 305



1997 APRIL



日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

平成9年度通常会員総会のお知らせ!!

日本ヒマラヤ協会平成9年度通常会員総会を下記により開催いたします。

ご承知のように、総会は本会の最高意思決定機関でありますので、会員の皆様には万障繰り合せのうえ出席くださるようお願いいたします。

なお、やむを得ず欠席される場合は、定款の定めるところにより、委任状を必ず提出されるようお願いいたします。(委任状は、別途送付いたしました料金受取人払はがきをご利用ください。) 5月20日までに必着するようお願いいたします。

記

1. 日時 平成9年5月31日(土)午後1時～2時
2. 場所 東京都豊島区東池袋4-7-7
かんぼヘルスプラザ東京
☎ 03-5952-6881
JR池袋駅東口から徒歩8分
地下鉄有楽町線東池袋から徒歩2分

3. 議事

- (1) 議案第1号 平成8年度事業報告について
- (2) 議案第2号 平成8年度収支決算について
- (3) 議案第3号 平成9年度事業計画について
- (4) 議案第4号 平成9年度収支予算について
- (5) 議案第5号 会員の除名について

4. その他

表紙写真

知られざる地を求めて、ムスターグ・アタ東面に足を踏み入れた我々を迎えてくれたのは、小カラクリ湖に影を写す見慣れた、たおやかなアタの姿ではなく、雄々しく聳え立つもう一つの「氷山の父」の偉容であった。

(岩崎 洋)

ヒマラヤ No.305

- | | |
|----------------------------------|------|
| 1. 小カラコルムからパミールへ(4) | 岩崎 洋 |
| 5. ネパール登山の手引き(3) | |
| 8. ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・トピックス・Books〉 | |
| 10. トータル獲得標高1996 | 山森欣一 |
| 24. 寸感・事務局日誌 | |

小カラコルムからパミールへ(4)

— ディラン (7,257m)、ムスターグ・アタ (7,546m) 連続登頂 —

岩崎 洋

山頂からあまり気持ちの良く無い氷雪壁を降り下界を目差す。ロープを出すかどうか迷う位の傾斜だが我々にはそのロープが無いので我慢して少しずつ高度を下げて行く。登りも遅かったが下りも遅い。何時も遅いのでそれを計算に入れて計画を立てていたの、なんとか明るうちにCⅡに辿り着いた。お茶を飲み、B・Cのウィスキーを思いつつ、さっさと寝る。ツェルトも4泊目になると悪くない、住めば都である。

★

CⅠ、Fix地点とデボを回収する度にいつもの夜逃げ状態になって行った。残った食料やカートリッジ、ゴミ等もすべて背負っているのなかなかの重量である。なんとかベースでウィスキーをと思っていたがA・B・Cで終わってしまった。

A・B・Cにはスペイン隊が貧乏な日本隊にプレゼントすると言って置いて行ったと言う潰れかけたテントとゴミがあった。山梨の人達に我々と話していると言って置いて行ったらしいが、思わず目を疑ってしまった。

我々は好きで貧乏しているのだ。寒くて餓しくても、それが私たちの背負える限界であって、明日彼らのゴミをおろす元気は我々には無い。取り敢えずベースでウィスキーだ、飲んでから考えよう。凡ては明日と言う事にして寝る。

★

アタックに出る山梨隊を見送り、残り少ない山での時間を味わいながら出発準備をしていると、L・Oが登って来た。彼はスペイン隊に装備をやると言われそれを取りに来たと言う。使えそうな物は彼が降ろし、食料他は翌日、ヒナルチェの村人が降ろした。

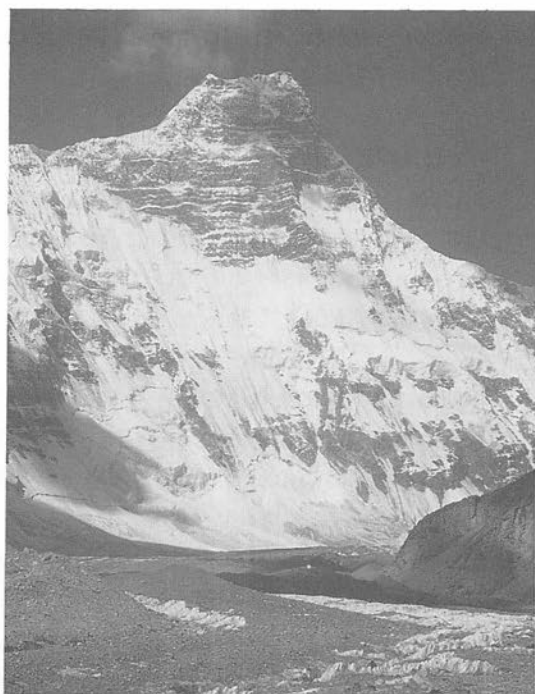
非常に腹立たしい出来事だったが1ヵ月後にム

スターグ・アタで今ではそれがあたり前のようになっていると知った。「フリーフードとかフリーテント」と名前を変えれば、たとえカラスがそれをつついたとしてもゴミを捨てた事にならないのだろうか？

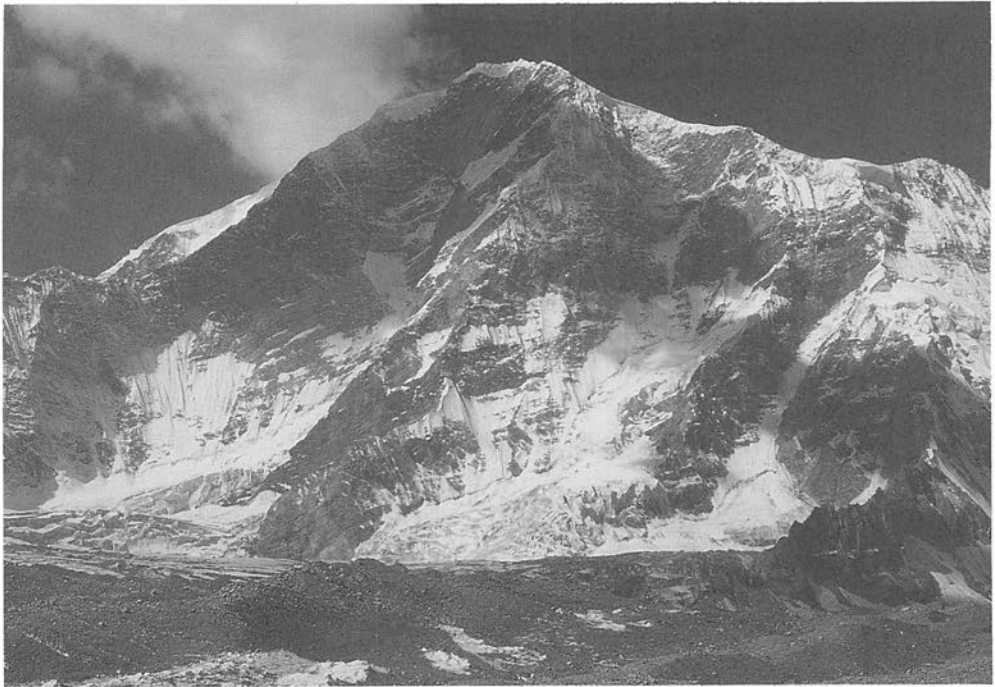
★

デブリーフィング終了後約3週間の休養期間を設けた。鈴木はチトラル、ギルギット方面のトレッキングに出掛け、私は暫くビールを友にして、ベッドに人形が出来るような生活をしていたが、その後思いなおしてトレッキングのガイドに出た。

思い思いに休日を過ごしリフレッシュして中国へ向う。個装はすでにギルギットにデボしてあるので、食料などを買い足すだけで、バスに乗れば



▲アタ東面7,028m峰



4日後には中川と合流出来る。ヒマラヤを横切るのも現代ではバスの乗り換えさえ出来れば難しい事は無い。

暫くチャイも飲めなくなるが、あの懐かしいウイグルの皿うどん、サモサ、ポロヤカバブーを食べながらビールを飲めると思うと、チャイやチキンカレーとお別れしてもいいような気持ちになってくるから不思議なものである。

★

今では見馴れた風景となったカラコルムハイウェーを北に向い、近くも遠くもならないギルギットには早朝着。ススト行のバスに末だ間に合う時間だったが、ホテルに荷物をデポしていたのでチェックインして朝から飲んでしまった。

★

早朝のススト行に乗り込む。昼過ぎには着いてしまうのだが、移動は早めに余裕を持って。「何があるか分からないのが面白い」そう言う所を旅しているのだから。

アリアバード辺りを通過する時には2人供窓から身を乗り出すようにしてディランを見つめていた。1ヵ月前には彼処から此処を見ていたのだ。7kmの高所から見降ろすのと、車窓から見上げる気軽さ、私達はそのギャップを楽しんでいた。

アリアバードで食事の後ウトウトしているうちに、グルミット、パサーを通過して気付いた頃にはスストに着いていた。

緑濃いヒマラヤ前山を越え、インダスの深い谷を溯り、熱風の吹くチラスを通り、フンザ川のゴルジュを詰めてやっと辿り着いたのだが、バスに乗っているだけなので実に呆気ないものである。

スストは既に主脈の北にあり、峠に登れば劇的に風景は変わる。パミールを越えて来た三蔵法師もさぞかし吃驚したに違いない。我々はその三蔵法師も高山病でヨレヨレになりながら眺めたであろうパミールの山々へ向かっているのだ。

翌日バスは峠を登りつめパミールの草原に滑り込んで行った。

★

峠を越えると其処は別世界、中央アジアである陸路を移動していて、一点を境にこれ程変わってしまう所も珍しい、変わると言うよりは違う世界に入り込んだと言った方が正しい。

タシクルガンで予定通り中川と合流して、一泊の後、ムスターグ・アタ東面への入り口となるスバシへと向かった。しかし、此の辺りスバシと言う地名がずいぶんとあるらしく（西面B・Cへの入り口もスバシである）荷物も我々も西面B・C

方面のスバシへ連れて行かれてしまった。ラクダも来てしまい、色々と揉めたが、荷物はラクダで、我々はジープでと言う事で収まり夕刻、我々のスバシに漸くテントを幕る事が出来た。

★

翌朝、村人の見送りをうけ、未だ見ぬアタの東面に思いを廻らせながら歩き出した、思ったよりラクダは早く、景色に見蕩れていると置いていかれてしまう位だ。それでも始めはコングールやアタの北峰などの写真を撮っていたが、河原歩きになると単調ですぐにあきてしまった。しかし休む分けにも行かずひたすらラクダの後をついて行く。

一日で着いてしまうのではと思う位快調だったが午後になってペースが落ちて、ベース予定地の手前で幕となる。

★

幕場を出て30分もしないうちに東面への氷河が見え出した。当然ベースはその手前なのですぐに着いてしまった。昨日頑張り過ぎたのか？足りなかったのか、良く分からないがとにかくベースに着いた。

★

氷河右岸からつめようとするが徒渉出来ずに諦めて左岸のモレーン帯に入るとすぐ踏み跡があった。そしてそれは奥まで続いており、我々は何の苦労も無く、ムスターグ・アタの東面を目にする事が出来た。西面からは一寸想像出来ないような壁が列っており同じ山とは思えないような光景が広がっていた。そしてあっけなく目標は失われた、意見の食い違いからあっさり中止となってしまったのだ。1人ではとても行けないので私も同意し、西面から登る事になった。西面通常ルートからの登頂には成功したが、アタには戦わずして敗れてしまったのだと思っている。 25. Feb '97

(注) 慕士塔格登山隊「浪(ロウ)」

隊長：中川 裕 (1960年8月23日生)

隊員：岩崎 洋 (1960年2月4日生)

“ : 鈴木正典 (1961年12月11日生)

▼アタ頂上から南面を見る (撮影：田村正勝)



▶アタ頂上から北方チャクラギールをみる(撮影・中川裕)



東京新聞の本

山の情報誌 岳人



毎月15日発売(日・夜日の) 定価670円

■本誌の年間購読ご案内

本誌の購読は、全国の書店、東京新聞販売店、中日新聞販売店、北陸中日新聞販売店で承ります。

直接購読ご希望の方は、とじ込みの振替用紙に「岳人何月号」からお書きのうえ、送り先郵便番号、住所、氏名を明記して、ご送金ください。

郵送料は通常号116円、特大号124円です。年間購読料は8,480円で送料は当社負担です。お求めの本誌に乱丁、落丁がありましたらお取り替えいたします。

97年	第1特集	特別企画
★1月号	日本の雪山大作戦	南米インカ・トレイルに行く
2月号	富士見十三州の山	春のフンザとバルトロ氷河
★3月号	山スキー大滑降	ネパールの夢のトレッキング
4月号	アルプスの雪稜	初夏のロッキー特選コース
★5月号	花と森の山旅	中部の山岳会と奥美濃の山
★6月号	私の花の名山	創刊50年 世界のアルピニストたち
★7月号	今から間に合う海外の山	仙台のクラブ、東北の沢に行く
8月号	みちのくの山と沢	屋久島の緑深い峰々と人
9月号	修験の山は名山	山の達人と訪ねる秋の北海道
★10月号	紅葉の山、尾瀬と南会津	撮影クラブと秋の大峰山脈へ
11月号	晩秋、湯けむり紀行	フリークライミング天国・岡山
12月号	身を守る雪山技術	冬の奥秩父に生きる山人たち

(★は 特大号となります)

東京新聞出版局 (中日新聞 東京本社) 〒108 東京都港区港南2-3-13 ☎(03)3740-2674
書店で発売中。中日新聞販売店でも取りつぎます。

隊員変更の手続き

メンバーの変更のある場合、以前認められた隊長の変更が、'96年から認められなくなった。その代わり以前細かい制約のあった隊員の変更に関しては細かい制約がなくなり隊長以外は自由となった。しかし一隊最大12名までとする。これからパキスタン同様、隊長名だけFixし許可を取得しておき、その後に最終メンバーを集める事ができる様になった。

一 隊員変更の手続き一

1. 隊員変更のある隊は新しい英文アプリケーション、バイオデータをネパール政府観光省登山課に提出する。
2. 日山協へ隊員変更の手続きをおこなう。

必要書類

- (1) 隊員変更申請書
- (2) 新計画書
- (3) 新旧隊員一覧表

尚、外務省に対しても隊員変更の書類を提出しておくべきである。

登山料の払い込み

以前はネパール・ルピー建てで毎年10%の値上げが行われていた。'92年より米ドル建てに変わると共に大幅な値上げが行われた。それにともない隊員数の制限と超過人員に対する登山料の割増しも導入された。さらに'93年よりサガルマータが5万ドルに値上げ。合わせてクーンブエリアの山に限り、隊員数制限が5人までとなり、追加も2名までしか認められなかった。又、サガルマータについては1シーズン、1ルート、1隊のみとなった。これらの処置はクーンブエリアの環境問題に起因し登山隊を減らし、他のエリアに分散させるのが目的であった。しかし現状は'96年にサガルマータに15隊が入山、アマダブラム20隊、そしてそのほとんどがノーマルルートに集中というのが現状である。

'96年にさらに登山料の値上げを実施。サガルマータについては私達一般登山者にとっては名実

ともに最高峰、高値の花といえる。

一 登山料（ロイヤリティ）の払い込み一

パーミッションが交付された登山隊は規定の登山料を2ヶ月以内に支払う。パーミッションが交付された日付から2ヶ月なので注意が必要。2ヶ月以内に支払がなされていない場合、許可の取り消しもありえる。

尚、登山料の払い戻しはできない。

〈登山料〉

	7名まで	8名～12名まで
サガルマータ	50000 \$	10000 \$ / 一人追加ごと
※〃 サウスコル	70000 \$	10000 \$ / 〃
8000m峰	10000 \$	1500 \$ / 〃
7501m～	4000 \$	500 \$ / 〃
7001m～	3000 \$	400 \$ / 〃
6501m～	2000 \$	300 \$ / 〃
6500m以下	1500 \$	200 \$ / 〃

登山ルートの変更については、サガルマータはサウス・コル経由のルートの場合は登山料支払い後は、10,000 \$の追加料金が徴収される。サガルマータ以外の山の場合は、登山料の25%が徴収される。

辺境地域でポピュラーでない山の場合については、春、夏、冬のシーズンの場合のみ、登山料について交渉することができる。

登山料の支払は観光省の口座に日本から直接振り込む方法になるが、時間が掛かり、追跡調査が面倒なことや、事故が多いことなどから、現地エージェントに相談しエージェントを経して払い込むほうが確実である。しかし遠征前にネパールに行く様な機会がある場合は別だが一般的には日本から観光省の口座に振り込む事となるだろう。又口座に振り込む場合、銀行手数料も合わせて振り込まないと登山料不足となるため注意が必要である。日本隊の場合、登山料は日本円、米ドルでもよいが、但し日本円の場合、観光省の口座が米ドル扱いの為円から米ドルへの両替手数料が別途必要となる。

〈観光省振り込み先〉

Nepal Rastra Bank

Thapathali Kathmandu

上記の口座番号は登山許可書に明記されているので必ず確認の上振り込まれたい。

ートレッキング・ピークの登山料ー

ネパール登山協会（NMA）扱いのトレッキング・ピークの登山料は下記の通り。標高などにより登山料が異なる。山名とカテゴリー区分は許可峰リストを参考にされたい。

〈トレッキング・ピークの登山料〉

山の区分	基本登山料	追加登山料	許可期間
a ランクの山	300\$ (10人まで)	7/人	1ヶ月
b ランクの山	150\$ (10人まで)	7/人	1ヶ月

隊荷の発送

現在カトマンズでは登山に必要な装備、食糧などはほとんどが入手可能である。そのため登山隊によっては個人装備などを持ち込む程度で、猥雑な手続きが必要なアナカン（Unaccompanied Baggage、旅行者手荷物別送品）を行う隊は減っている。

又、隊荷をアナカン輸送するよりも多少のエクセス分（超過重量料金）を支払って手荷物で持ち込む方が割安の場合もある。しかしロイヤル・ネパールなどの航空機は機体が小さいため、機内持ち込みの手荷物は厳しくチェックされるのを考慮し、荷物の量が余り多いような場合には、あらかじめアナカンで先送りしておくのがベターである。

それでは、アナカン輸送について触れてみる。隊荷の輸送手段については、船便+陸送、船便+航空便、航空便の3つが考えられる。ほとんどの隊が航空便を使用しているが、隊荷の量、輸送にかかる日数、費用等を考慮し、隊にとって最もメリットのある方法を選ばれたい。

ネパールの通関には現地エージェントを通じてインポート・ライセンス（輸入許可書）を申請するが、その際、輸送業者発行の送り状（INVOICE）と英文パッキング・リストが必要である。又、ネパールでは、パッキング・リストにコードナンバーを付すことが義務づけられているので、現地エージェントに付してもらおう。

パッキング・リストに記載する品名、数量、価

格はある程度正確に記載していないと輸入許可がおりない場合がある。尚、パッキング・リストの受け取り人の欄には、空港に受け取りに行く人と同一人物の氏名を記入しておく。

尚、ガス・カートリッジや酸素などは危険物扱いとなるためアナカンでは運べない。

ーアナカン輸送の実際ー

先ず、隊荷の発送予定日が決まったら、その約1ヶ月前位に輸送業者へ連絡し、目的地までのキャリアをブッキングして購入する。この時必要なことは、隊荷の現地到着希望日、概算重量と個数、形状・寸法などを連絡しなければいけない。

次に隊荷輸送に必要な書類について述べてみる。

1. パッキング・リストの作成

①パッキング・リストには下記の項目を記載する

- a. Name
- b. Code No.
- c. Quantity
- d. Unit Price
- e. Total Price

②品目は品目毎に細かく記入する。

③価格は日本円又は米ドル表示どちらでも可。

④Code No. の欄は空白にしておき、現地エージェントに記入してもらう。

⑤価格は極端に安くすると輸入許可書が取得できないことがあるため、正規の価格に近い価格でパッキング・リストを作成する。

⑥パッキング・リストには下記の品目は加えない事。

- a. テトラサイクリン系の薬：加える場合は風邪薬、胃薬等の他の薬名にする。
- b. 牛肉製品：加える場合は他の食品名にし、缶詰め等の絵、表示は消すこと。
- c. 煙草、酒。
- d. フィルム：加える場合は一か所にまとめず数ヶ所に分散させる。
- e. 電池：リスト名はDry Denchiとし、フィルムと同じ扱いにする。
- f. カセット・レコーダー、テープ・レコーダー
- g. ラジオ
- h. カメラ、8mmビデオ・カメラ
- i. ウォークー・トーキー、トランシーバー

⑦パッキング・リストは5部必要。事前に現地エージェントに送付する。Code No.記入後ネパールにてコピーする。

⑧パッキング・リストはConsumable GoodsとNon-Consumable Goodsとに分けて制作する事。

Consumable Goods—食糧、ガス、酸素、薬、等の消耗品。

Non-Consumable Goods—テント、寝袋、等の消耗品以外の品。

⑨Non-Consumable Goodsは登山終了後、原則的には日本に送り返す事になる。

初めのパッキング・リストと送り返す品のパッキング・リストは一致しなければならないので、初めのパッキング・リストにない品（お土産等）は送ることはできない。

又、クーンブ・エリアの山に入る隊は環境保全のための供託金制度がある。これらリストの品を送り返した後、供託金を回収できる。

⑩Non-Consumable GoodsとConsumable Goodsの梱包は別々にする。

2. INVOICEとAIR WAYBILL

①Consignee's Name & Addressの欄に下記の項目を記入する。

a. 隊名：隊名が記入されていない場合、輸入許可書が取得できない。

b. 受け取り人名：隊荷の通関時に必要。連名にしておくとう便利。

c. 現地エージェントの住所、連絡先：隊荷の到着及びトラブル時に必要。

②基本的には、荷物の受け取りには受け取り人とその人のパスポートが必要となる。受け取り人は複数にする事も可能。

③輸入許可書取得時にAIR WAYBILLと添付されているINVOICEのオリジナルが必要なため、必ず日本にてコピーを取り、国際宅急便（OCS, DHL）等で現地エージェントまで隊荷発送後に送付する。

④運賃が明記されていないAIR WAYBILLは無効となり、輸入許可書が取得出来ない。船便、航空便等複数の機関利用の場合は運賃の記入されたすべての機関のAIR WAYBILLが必要となる。

3. 輸入税と供託金（デポジット・マネー）

①日本から送られた品物は輸入許可書取得後、通関手続きを行い税金や供託金を支払ってネパール国内に持ち込むことが出来る。

②輸入税はConsumable Goodsに掛かる、パッキング・リストの総価格、運賃、換金レート等によって下記の通りに計算される。

日本から送られる品目の総重量：(I) kg

パッキング・リストの総価格：(II) US\$

交換レート (US\$→ネパールRs)：(III) Rs

運賃 (日本～カトマンズ)：(IV) US\$/1 kg

a. (II) US\$×(III)Rs：品目の総価格のルピー計算

b. (I)kg×(IV)US\$×(IV)Rs：運賃ルピー計算

c. 上記a×0.02：保険 税率2%

d. 上記a+上記b+上記c：ネパール輸入時の品目の価格

e. 上記d×0.01：カスタム・タックス税率10%

f. (上記d+上記e)×0.15：セールス・タックス税率15%

g. 上記e+上記f：輸入税合計

③Non-Consumable Goodsは通関時に供託金を支払わなければならない。供託金も輸入税同様に計算される。

④供託金は登山終了後にNon-Consumable Goodsの送り返し手続き終了後に払い戻し手続きを行い、ネパール・ルピーにて払い戻しされる。手続きに1週間ほど掛かる。

4. 輸入許可書製作手数料

①輸入許可取得時に商業省に上記d (CIF KATHMANDU)の13.5%を製作手数料として支払わなくてはならない。

5. 空港倉庫保管料

①エアー・カーゴの場合、品物がカトマンズ到着後、7日間を過ぎると0.5Rs/1kg/1日の保管料が掛かる。

尚、空港に隊荷を取りに行く際は空港からの輸送手段（トラック等）の手配も忘れずに行きたい。

(文責 野沢井 歩)

地域ニュース

《パキスタン》

裁判所で爆弾テロ、16人死亡

1月18日、ラホールの地方裁判所構内駐車場で車に仕掛けられた爆発物が爆発、スンニ派指導者や警官ら少なくとも16人が死亡したほか数十人が負傷した。犯行声明は出ていないが、対立しているシーア派の過激派が仕掛けた可能性が大きいと見られている。

翌19日にはスンニ派の過激派が、二階建のイラン文化センターに放火、炎上させたが、これは、前日の報復とみられる。(朝日新聞)

《中国》

連続地震で12人死亡

中国中央テレビによると、中国の新疆ウイグル自治区カシュガル市の伽師県で21日午前9時47分(日本時間同10時47分)ごろ、マグニチュード(M)6.4と6.3の2回の地震が連続して起き、12人が死亡、27人が重傷。

同県で家屋5百戸が倒壊したほか、千戸に亀裂ができるなどの被害を受け、自治区や県政府が救援に乗り出した。同自治区北西部の中心都市カシュガル市でも強い揺れを感じたという。

同自治区北西部では昨年3月にも24人が死亡するM6.9の地震が起きたほか、11月にもカラコルム山脈近くでM7.1の地震を記録している。

(北京21日共同)

「新疆独立派を鎮圧」自治区主席宣言

1月25日開かれた新疆ウイグル自治区人民代表大会の会議の席上、アブラテ・アブドルシテ同自治区主席は、イスラム教徒の少数民族による「独立と違法な宗教活動」に対し、「重大な打撃を与え、敵勢力の人的戦力を粉碎した」と述べ、「鎮圧宣言」を行った。

同自治区では、昨年5月に、中央政府寄りの現

地宗教指導者アロンハン・アジ同自治区政治協商会義副主席が殺害されるなど、分離・独立の活動が活発化。中国政府は取り締まりの強化を軍や現地政府に指示、テロの発生や当局との衝突事件が、現地や国外から断続的に伝えられてきた。国外の独立派組織は昨年末、当局の弾圧により、昨年4月以来、1,700人が処刑され、5万人が逮捕されたと発表していた。

新疆日報によると、同主席は政府活動報告の中で、逮捕者の数や具体的な事例については言及せず、「法に治って、宗教事務の管理を強化し、違法な宗教活動に対する取り締まりを断固として行い、宗教を理用した民族分裂活動を厳しく打倒した」と、末端での抑圧政策の強化を示唆した。

ウイグル族などイスラム教徒の少数民族が人口の約6割を占める同自治区では、国外の勢力と連合して独立を要求する動きが、最近の中央アジア諸国でのイスラムの原理主義の台頭に一段と刺激を受けている。(1997.2.9 読売新聞)

ウイグルで新疆独立派千人が暴動

10日付香港紙「明報」は、新疆ウイグル自治区の伊寧市で5日から6日にかけて、千人を超えるウイグル族の青年が「独立」を訴えるデモ行進を行ったと報じた。同紙が伊寧市民の話として伝えたところによると、青年らは漢族に出くわすと、片っ端から暴行を加えて殺害、遺体を焼いた。

この騒乱で、少なくとも十数人の漢族が死亡したほか、百人以上が負傷した。同自治区の少数民族の騒乱では、1949年の新中国成立以来最大規模になったという。地元の警官や武装警察部隊が6日午後、青年らを逮捕し、鎮圧した。地元テレビがその模様を伝えたという。先の中国国内の報道では、同自治区主席が先月下旬の会議の席上、少数民族の独立運動を鎮圧したとの宣言を行っていた。

また、伊寧の警察当局は10日、この度の民族暴動の際、治安部隊が4～5百人を逮捕したと語った。そのうち一部は、その後釈放されたという。

北京からの電話取材に応じた警察当局者によると、警察側は、群衆を威嚇するために発砲したと

いう。

伊寧の住民が10日伝えたところによると、この暴動後同自治区政府当局は伊寧に夜間外出禁止令を出した。(1997.2.11 読売新聞)

トピクス

パンチェン・ラマ11世の修行生活を紹介

中国当局とインドに亡命中のダライ・ラマ14世の間で、その指名をめぐる激しく対立したパンチェン・ラマ11世(7歳)の、この1年間の修行の様態などを伝える珍しい記事と写真が「北京週報」最新号に掲載された。国営新華社通信も、チベット自治区や青海省で、公共の場や家庭に掲示できるよう、11世の額入り写真が最近発売されたと伝えており、就任から1年を経て、その定着化キャンペーンが始まったようだ。

チベット仏教の最高指導者の1人、パンチェン・ラマの指名を巡っては、ダライ・ラマ14世が別の少年を指名したため、内外で論議を招いたが、中国当局は伝統的な儀式にのっとり、現在の11世を95年12月に就任させて、チベット自治区シガツェのタシルンポ寺で修行生活を送らせ、既成事実を積み重ねている。

中国政府の広報誌とも言うべき「北京週報」(週刊紙)は、11世の写真をふんだんに使って、1年間の修行生活を紹介している。両親から離れた修行生活の中で、肉食中心から野菜や果物重視の食事にも慣れ、1日8時間を越える経典の学習にいそしんでいる。様々な儀式の際、7歳の少年とは思えない聡明な言動を見せ、関係者をほっとさせているという。自転車やサッカーが好きで、プロサッカー選手を目指すような気の入れようだ。(1997.2.7 読売新聞)

Books

八千メートル峰への挑戦 日本隊45年間の軌跡

本会刊。八千メートル峰の概要をまとめたもの。内容は、山別登頂者リスト(19座)／実登頂者リス

ト(269人)／延登頂者リスト(419人)／高齢者登頂者リスト(44歳以上54人)／年少登頂者リスト(25歳未満35人)／山別入山者表(14座) 入山・登頂と死亡集計表／登頂者の遭難死調べ／山別遭難者一覧表／女性実登頂者リスト／女性延登頂者リスト／年代・山別入山者数調べ(グラフ) 山別、年別入山者一覧表／登頂者生年月日別リスト／八千メートル峰トータル獲得標高1996(ハット・トリック、冬期登頂、アルパイン・スタイル、無酸素、縦走などのデータがほぼ網羅されている)。在庫10冊のみ。

B5版 109頁 2,000円(送料270円)

〒170 豊島区東池袋4-2-7 萬栄ビル501号
日本ヒマラヤ協会

女神の山 チョモラリ

1996年秋に長野県山岳協会と中国登山協会が合同で登頂に成功した登山隊の記録。同隊の様態は正月にNHKで放映された。

固定ロープを中心としたテイクアウト活動についてその実践の苦悩が報告されている。大部隊の場合食糧に予備食を導入すると、どうしても無駄になることが多い。そして下山時はゴミとして残る運命にあることは既に指摘されていることであるので一工夫が欲しかったところである。

A4版 81頁

連絡先：〒390-14 長野市浅川東条148-3
田村宣紀方

東京集会のお知らせ

日時 3月31日(月)午後7時
場所 HA J ルーム(地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分)
又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分)

■財政支援：1万円(中島秀澄、江尻健二)
2万円5千円(大内倫文)

トータル獲得標高1996

山森欣一

1996年日本ヒマラヤ登山界は、サガルマータの国際公募隊に参加した難波康子の登頂成功から一転して遭難すると云う衝撃で幕を開けた。続いて北側のチョモランマでは、福岡隊がインド隊からクレームをつけられると云う騒動に巻き込まれた。

この結果、はからずもヒマラヤの八千メートル峰登山の世界に浸透しつつある、ガイド付き登山の様々な実態が浮き彫りにされることとなった。同時に世界最高峰は南北両面共に、国際公募隊を中心にそれぞれ十数隊が、ひしめき合って同一ルート上で登山しており、その結果、語学力不足によるトラブルが日常的に発生する可能性が高いことも分かった。

また、秋にはマナスルに於て、小西政継が登頂成功後帰路行方不明になると云う遭難事故が発生し、有酸素登山における酸素管理がクローズアップされると共に、中高年登山者層を中心に増えつつある、シェルパなど高所協力員に依存する度合の高い八千メートル峰登山に警鐘を鳴らす結果ともなった。

一方、K2やウルタルII、ラトナ・チュリなどの登山では、若手が活躍して将来への希望をつないだ。

また、テイクイン、テイクアウトに代表される自然環境を汚染しないで登山を実践する運動も、ようやく登山者に浸透しつつある。現実には実施に当たって濃淡があるのは止むを得ないことである。批判するのではなく、相互に方法論を協議し合って最終的に自然環境に良い結果をもたらすことを目標としたい。

20000mを超えた男たちの概要

1996年12月31日現在

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
1	×山田昇 (115,804) 14座 1950.2.生	a.ダウラギリI	8,167	N	1978.10.21	群馬県山岳連盟	南東稜	初登攀	1
		b.カンチェンジュンガM	8,586	N	1981.5.9	H A J	南西面		
		c.ランタン・リ	7,205	N	1981.10.10	H A J	南西稜	初登頂	
		d.ダウラギリI	8,167	N	1982.10.18	カモシカ同人	北西稜	初登攀	
		e.ローツェ	8,516	N	1983.10.9	カモシカ同人	西面	日本人初登	
		f.サガルマータ	8,848	N	1983.12.16	〃	南東稜	冬期第三登	
		g.マモストン・カンリ	7,526	I	1984.9.13	H A J	北東稜	初登頂	
		h.K2	8,611	P	1985.7.24	H A J	南東稜	O ₂ レス	
		i.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜	O ₂ レス	
		j.マナスル	8,163	N	1985.12.14	カモシカ同人	北東面	冬期第二登	
		k.アンナブルナI	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南壁	冬期初登攀	
		l.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J A C	北～南	初縦断	
		m.シシヤパンマM	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		n.チョー・オユー	8,201	C	1988.11.6	〃	北西面	ハット・トリック	

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
2	近藤和美 (103,182m) 14座 1941.11.生 (55才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1984.7.31	九山同人	ツェト		日本人初登
		b.レーニン	7,134	S	1984.8.6	〃	ラズジ		
		c.コムニズム	7,495	S	1986.8.3	九山同人	ボロド		
		d.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1986.8.9	〃	ツェト		
		e.レーニン	7,134	S	1986.8.15	〃	ラズジ		
		f.レーニン	7,134	S	1988.8.14	労山	ラズジ		
		g.ハン・テングリ	7,010	S	1989.8.6	労山	ソロマ		
		h.ハン・テングリ	7,010	S	1991.8.2	労山	ボグレ		
		i.ポベータ	7,439	S	1991.8.14	〃	ヴァジ		
		j.チャー・オユー	8,201	C	1992.9.20	カトマンズクラブ	北西面	50才	
		k.シシャパンマC	8,008	C	1994.5.18	労山	北東稜	52才	
		l.ヌン	7,135	I	1995.8.16	労山	北西稜		
		m.ダウラギリI	8,167	N	1995.10.6	〃	北東稜	53才	
		n.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1996.8.14	労山	ツェト		
3	田辺治 (84,772m) 11座 1961.1.生 (35才)	a.ラブチュ・カン	7,367	C	1987.10.26	H A J	西稜	初登頂	3
		b.ガッシャーブルムII	8,035	P	1990.7.26	イエティ同人	南西稜		
		c.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1991.7.17	東海山岳会	ツェト		
		d.コムニズム	7,495	S	1991.7.29	〃	ボロド		
		e.レーニン	7,134	S	1991.8.5	〃	ラズジ		
		f.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.8.24	東海山岳会	西稜		
		g.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
		h.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	〃	南西壁	ハット・トリック	
		i.ギャジ・カン	7,038	N	1994.10.7	信州大学	西稜	初登頂	
		j.マカルー	8,463	C	1995.5.21	J A C	東稜下		
		k.ラトナ・チュリ	7,035	N	1996.10.14	信州大学	西稜	初登頂	
4	尾形好雄 (69,497m) 9座 1948.7.生 (47才)	a.ヒマルチュリW	7,540	N	1978.5.7	雪と岩の会	南西稜	初登頂	4
		b.ヤルン・カン	8,505	N	1981.5.9	H A J	南東面	日本人初登	
		c.マモストーン・カンリ	7,526	I	1984.9.15	H A J	北東稜	初登頂	
		d.ギャラ・ベリ	7,294	C	1986.10.31	H A J	南稜	初登頂	
		e.リモI	7,385	I	1988.7.28	H A J	南壁	初登頂	
		f.ピラミッド・ピーク	7,123	I	1993.4.24	H A J	北東稜	初登頂	
		g.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面		
		h.サガルマータ	8,848	N	1993.12.22	〃	南西壁	冬期初登攀	
		i.サトパント	7,075	I	1995.9.13	雪と岩の会	北稜		
5	重廣恒夫 (63,431m) 8座 1947.10.生 (48才)	a.ナンダデヴィE	7,434	I	1976.6.9	J A C	南稜	日本人初登	5
		b.K2	8,611	P	1977.8.8	J M A	南東稜	第二登	
		c.ラトックI	7,145	P	1979.7.19	京都カラコルムC	南稜	初登頂	
		d.チョモランマ	8,848	C	1980.5.10	J A C	北壁	初登攀	
		e.カンチェンジュンガC	8,482	N	1984.5.18	〃	南稜	Sから縦走	
		f.マッシャーブルムE	7,821	P	1985.7.23	関西カラコルム	北西壁	初登攀	
		g.ブロード・ピークM	8,051	P	1985.8.12	〃	西稜		
		h.ナイブン	7,034	C	1991.11.25	J A C	南西稜	日本人初登	

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
6	田部井 淳子 (61,375m) 8 座 1939.9. 生 (57才)	a.アンナプルナⅢ	7,555	N	1975.5.16	女子登攀クラブ	南西面	女性初登頂	10
		b.サガルマータ	8,848	N	1975.5.16	女子登攀クラブ	南東稜		
		c.シシャパンマM	8,027	C	1981.4.30	女子登攀クラブ	北東稜		
		d.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.28	女子登攀クラブ	ツェト		
		e.コムニズム	7,495	S	1985.8.7	〃	ボロド		
		f.レーニン	7,134	S	1985.8.15	〃	ラズジ		
		g.ハン・テングリ	7,010	S	1994.8.12		ソロマ		
		h.チャー・オユー	8,201	S	1996.9.20	国際公募隊	北西面		
7	小西 浩文 (61,035m) 8 座 1962.3. 生 (34才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1982.7.29	高山研究所	ツェト	20歳	6
		b.コムニズム	7,495	S	1982.8.5	〃	ボロド		
		c.シシャパンマC	8,008	C	1982.10.10	高山研究所	北東稜		
		d.レーニン	7,134	S	1988.8.14	イースト	ラズジ		
		e.ハン・テングリ	7,010	S	1989.8.6	群馬ミヤマ	ソロマ		
		f.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.30	バイネ/スキー	西稜		
		g.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1993.7.31	バイネニアソブ	南西稜		
		h.チャー・オユー	8,201	C	1995.5.9	ガイア	北西面		
8	山本 篤 (56,942m) 7 座 1962.10. 生 (34才)	a.ラカボシE	7,010	P	1987.7.3	明治大学	北稜	初登頂	13
		b.シシャパンマ	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		c.チャー・オユー	8,201	C	1988.11.6	〃	北西面		
		d.サガルマータ	8,848	N	1989.10.13	カトマンズクラブ	南東稜		
		e.ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	J A C	南壁		
		f.マカルー	8,463	C	1995.5.21	J A C	東稜下		
		g.K2	8,611	P	1996.8.14	J A C	南南東稜		
		9	長尾 妙子 (54,870m) 7 座 1956.3. 生 (40才)	a.コムニズム	7,495	S	1985.7.28		
b.レーニン	7,134			S	1985.8.6	〃	ラズジ		
c.コムニズム	7,495			S	1986.8.2	高山研究所	ボロド		
d.ブロード・ピークM	8,051			P	1991.7.30	バイネ/スキー	西面		
e.マカルー	8,463			N	1991.10.7	ベルニナ山岳会	北西稜		
f.ガッシャーブルムⅡ	8,035			P	1993.7.31	バイネニアソブ	南西稜		
g.チャー・オユー	8,201			C	1994.9.25		南西壁		
10	山本 宗彦 (54,818m) 7 座 1959.12. 生 (37才)			a.レーニン	7,134	S	1983.7.27	J A C	ラズジ
		b.コムニズム	7,495	S	1983.8.6	〃	ボロド		
		c.マッシャーブルムE	7,821	P	1985.7.23	関西カラコルム	北西壁		
		d.ブロード・ピークM	8,051	P	1985.8.12	〃	西稜		
		e.ラカボシE	7,010	P	1987.7.3	明治大学	北稜		
		f.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J A C	北稜		
		g.マカルー	8,463	C	1995.5.22	J A C	東稜下		
		11	遠藤 晴行 (54,811m) 7 座 1957.2. 生 (39才)	a.サガルマータ	8,848	N	1983.10.8	イエティ同人	南東稜
b.コルジェネフスカヤ	7,105			S	1985.7.20	高山研究所	ツェト		
c.コムニズム	7,495			S	1985.7.28	〃	ボロド		
d.レーニン	7,134			S	1985.8.6	〃	ラズジ		
e.ナンガ・パルバット	8,126			P	1988.7.12	高山研究所	西面		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
		f.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1989.7.12	高山研究所	北稜		
		g.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1990.7.2	イエティ同人	南西稜		
13	高橋 堅 (51,553m) 7 座 1958.8. 生 (38才)	a.ネムジュン	7,139	N	1983.10.27	弘前大学	東稜	初登頂	17
		b.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1985.7.28	横浜蝸牛山岳会	南西稜		
		c.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1988.7.22	弘前大学	ツェト		
		d.コムニズム	7,495	S	1988.7.30	〃	ボロド		
		e.レーニン	7,134	S	1988.8.7	〃	ラズジ		
		f.ディラン	7,257	P	1989.7.12	弘前大学	北稜	初登攀	
		g.ウルタルⅡ	7,388	P	1996.7.31	カトマンズC	南稜	初登攀	
14	岩崎 洋 (51,449m) 7 座 1960.2. 生 (36才)	a.マモストン・カンリ	7,526	I	1984.9.15	H A J	北東稜	初登頂	28
		b.カルジャン	7,216	C	1986.10.14	H A J	西壁	初登頂	
		c.ピラミッド・ピーク	7,123	I	1993.4.24	H A J	北東稜	初登頂	
		d.ティリッチ・ミール	7,706	P	1995.7.7	バーバリアン	西稜		
		e.サトバント	7,075	I	1995.9.13	雪と岩の会	北稜		
		f.ディラン	7,257	P	1996.7.24	バーバリアン	西稜	初登攀	
		g.ムスターグ・アタ	7,546	C	1996.9.14	浪	西稜		
15	尾崎 隆 (51,012m) 6 座 1952.9. 生 (44才)	a.ブロード・ピークM	8,051	P	1977.8.8	愛知学院大学	西稜	第二登	11
		b.チョモランマ	8,848	C	1980.5.10	J A C	北壁	初登攀	
		c.マナスル	8,163	N	1981.10.12	イエティ同人	北東面		
		d.ローツェ	8,516	N	1983.10.9	カモシカ同人	西面	日本人初登	
		e.サガルマータ	8,848	N	1983.12.16	〃	南東稜	冬期第三登	
		f.カンチェンジュンガM	8,586	N	1984.5.19	J A C	南西面		
16	品川 幸彦 (50,739m) 7 座 1968.2. 生 (28才)	a.レーニン	7,134	S	1992.8.12		ラズジ		12
		b.ハン・テングリ	7,010	S	1993.8.4		ソロマ		
		c.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1994.7.28		ツェト		
		d.コムニズム	7,495	S	1994.8.4		ボロド		
		e.ハン・テングリ	7,010	S	1995.7.30		ソロマ		
		f.ポベーダ	7,439	S	1995.8.10		ヴァジ		
		g.ムスターグ・アタ	7,546	C	1996.8.13	H A J	西稜		
17	三谷 統一郎 (48,803m) 6 座 1958.3. 生 (38才)	a.アンナプルナ・ダクシン	7,219	N	1978.10.16	明治大学	南西稜	初登攀	56
		b.ダウラギリⅠ	8,167	N	1982.10.17	高松 芳山	北東稜		
		c.カンチェンジュンガM	8,586	N	1984.5.20	J A C	南西面		
		d.チョー・オユー	8,201	N	1985.10.3	カトマンズクラブ	北西面	日本人初登	
		e.サガルマータ	8,848	N	1989.10.13	カトマンズクラブ	南東稜		
		f.ナムチャ・パルワ	7,782	C	1992.10.30	J A C	南壁	初登頂	
18	今村 裕隆 (47,795m) 6 座 1959.4. 生 (37才)	a.ギャラ・ベリ	7,294	C	1986.10.31	H A J	南稜	初登頂	14
		b.チョゴリ	8,611	C	1990.8.9	横浜山岳協会	北西壁	初登攀	
		c.カンチェンジュンガM	8,586	I	1991.5.24	H A J	北東稜		
		d.マカルー	8,463	N	1991.10.5	ベルニナ山岳会	北西稜		
		e.ヌン	7,135	I	1992.8.13	H A J	西稜		
		f.ティリッチ・ミール	7,706	P	1995.7.7	バーバリアン	西稜		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
19	江塚進介 (46,834m) 6座 1961.4.生 (35才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1991.7.17	東海山岳会	ツェト	ハットトリック	15
		b.コムニズム	7,495	S	1991.7.29	〃	ポロド		
		c.レーニン	7,134	S	1991.8.5	〃	ラズジ		
		d.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.8.24	東海山岳会	西稜		
		e.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
		f.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	〃	南西壁		
20	高橋和之 (46,112m) 6座 1943.1.生 (53才)	a.ダウラギリIV	7,661	N	1975.10.19	カモシカ同人	南面	日本人初登	20
		b.ローツェ	8,516	N	1983.10.11	カモシカ同人	西面		
		c.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.21	高山研究所	ツェト		
		d.コムニズム	7,495	S	1985.7.28	〃	ポロド		
		e.レーニン	7,134	S	1985.8.6	〃	ラズジ		
		f.チャー・オユー	8,201	C	1987.9.21	カモシカ同人	北西面		
21	林雅樹 (44,251m) 6座 1963.11.生 (33才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1990.7.24	京都クライマーズC	ツェト	北面	30
		b.コムニズム	7,495	S	1990.8.1	〃	ポロド		
		c.レーニン	7,134	S	1990.8.7	〃	ラズジ		
		d.ハン・テングリ	7,010	S	1994.8.11	京都クライマーズC	ソロマ		
		e.ポベータ	7,439	S	1994.8.22	〃	ヴァジ		
		f.ガッシャーブルムI	8,068	P	1996.7.30	京都クライマーズC			
22	原真 (43,952m) 6座 1936.8.生 (60才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1976.8.7	J A C 東海	ツェト	北面	16
		b.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1982.7.31	高山研究所	ツェト		
		c.シシャパンマC	8,008	C	1982.10.10	高山研究所	北東稜		
		d.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.21	高山研究所	ツェト		
		e.コムニズム	7,495	S	1985.7.29	〃	ポロド		
		f.レーニン	7,134	S	1985.8.6	〃	ラズジ		
23	名塚秀二 (43,094m) 5座 1954.11.生 (42才)	a.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜	初登攀	17
		b.チョグリ	8,611	C	1990.8.9	横浜山岳協会	北西壁		
		c.カンチエンジュンガM	8,586	I	1991.5.24	H A J	北東稜		
		d.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面		
		e.サガルマータ	8,848	N	1993.12.18	〃	南西壁		
24	×加藤保男 (42,523m) 5座 1949.3.生	a.サガルマータ	8,848	N	1973.10.26	R C C II	南東稜	秋期初登頂	18
		b.ナンダデヴィM	7,816	I	1976.6.15	J A C	南稜	日本人初登	
		c.チョモランマ	8,848	C	1980.5.3	J A C	北稜		
		d.マナスル	8,163	N	1981.10.14	イエティ同人	北東面		
		e.サガルマータ	8,848	N	1982.12.27	イエティ同人	南東稜	冬期第二登	
25	×三枝照雄 (42,015m) 5座 1957.10.生	a.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜	冬期初登攀	19
		b.アンナプルナI	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南壁		
		c.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J A C	北東稜		
		d.シシャパンマM	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		e.チャー・オユー	8,201	C	1988.11.6	〃	北西面		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*	
26	石川 富康 (41,387m) 5 座 1936.11. 生 (60才)	a. チョー・オユー	8,201	C	1991. 9. 28	シルバートートル	北西面	54才	34	
		b. サガルマータ	8,848	N	1994. 5. 13	愛知学院大学	南 稜	57才		
		c. ダウラギリ I	8,167	N	1994.10. 1	シルバートートル	北東稜	57才		
		d. シシャパンマ C	8,008	C	1995. 9. 26	Y M S	北東稜	58才		
		e. マナスル	8,163	N	1996. 9. 27	登 稜 会	北東面	59才		
27	谷川 太郎 (40,510m) 5 座 1967. 6. 生 (29才)	a. ブロード・ピーク M	8,051	P	1991. 7. 12	東京農業大学	西 稜	38		
		b. ガッシャーブルム II	8,035	P	1993. 7. 22	東京農業大学	南西稜			
		c. マカルー	8,463	C	1995. 5. 22	J A C	東稜下			
		d. ジンミゲラ・チュリ	7,350	N	1995.10.16	東京農業大学	西 稜			
		e. K 2	8,611	P	1996. 8. 12	J A C	南南東			
28	谷口 守 (39,800m) 5 座 1948.12. 生 (48才)	a. ナンガ・バルバット	8,126	P	1983. 7. 31	富山県山岳連盟	西 面	日本人初登	35	
		b. ブロード・ピーク M	8,051	P	1988. 8. 13	富山県山岳連盟	西 稜			
		c. チョー・オユー	8,201	C	1992. 9. 20	カトマンズクラブ	北西面			
		d. ガッシャーブルム I	8,068	P	1994. 8. 12	富山県山岳連盟	北 稜			
		e. パサン・ラム・チュリ	7,354	N	1996.10.19	大阪山の会	西 稜			
29	宮崎 勉 (39,761m) 5 座 1947.11. 生 (49才)	a. ダウラギリ IV	7,661	N	1975.10.21	カモシカ同人	南 面	第二登	23	
		b. ダウラギリ I	8,167	N	1978.10.19	群馬県山岳連盟	南東稜	初登攀		
		c. ローツェ	8,516	N	1983.10.10	カモシカ同人	西 面	日本人初登		
		d. カルジャン	7,216	C	1986.10.16	H A J	西 面	初登頂		
		e. チョー・オユー	8,201	C	1993.10.12	群馬県山岳連盟	北西面			
30	×佐藤 正倫 (39,161m) 5 座 1963. 8. 生	a. 7,167m 峰	7,167	C	1986. 8. 16	東京農業大学	南東面	初登頂	24	
		b. ナンガ・バルバット	8,126	P	1990. 7. 24	バイネニアソブ	西 面			
		c. ブロード・ピーク M	8,051	P	1991. 7. 12	東京農業大学	西 稜			
		d. ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	J A C	南 壁	初登頂		
		e. ガッシャーブルム II	8,035	P	1993. 7. 22	東京農業大学	南西稜			
31	和田 城志 (39,034m) 5 座 1949.10. 生 (47才)	a. ゲント II	7,342	P	1978. 7. 15	関西学生岳連	北 面	初登頂	25	
		b. ランタン・リルン	7,234	N	1978.10.24	大阪市立大学	南東面			
		c. カンチェンジュンガ M	8,586	N	1984. 5. 20	J A C	南西面			
		d. マッシュャーブルム E	7,821	P	1985. 7. 23	関西カラコルム	北西壁			初登攀
		e. ブロード・ピーク M	8,051	P	1985. 8. 12	〃	西 稜			
32	東條 真百合 (37,936m) 5 座 1955. 6. 生 (41才)	a. コルジュネフスカヤ	7,105	S	1985. 7. 28	女子登攀クラブ	ツェト	26		
		b. コムニズム	7,495	S	1985. 8. 7	〃	ポロド			
		c. レーニン	7,134	S	1985. 8. 15	〃	ラズジ			
		d. ガッシャーブルム II	8,035	P	1988. 8. 8	女子登攀クラブ	南西稜			
		e. ダウラギリ I	8,167	N	1990.10. 9	女子登攀クラブ	北東稜			
33	吉村 哲明 (37,042m) 5 座 1961. 7. 生 (35才)	a. コルジュネフスカヤ	7,105	S	1988. 7. 22	弘 前 大 学	ツェト	初登攀	27	
		b. コムニズム	7,495	S	1988. 7. 30	〃	ポロド			
		c. レーニン	7,134	S	1988. 8. 7	〃	ラズジ			
		d. ディラン	7,257	P	1989. 7. 12	弘 前 大 学	北 稜			
		e. ブロード・ピーク M	8,051	P	1991. 7. 30	パイネ/スキー	西 稜			
34	松本 正城 (36,362m)	a. クン	7,077	I	1981. 8. 27	R C C II	東 稜	29		
		b. ヌン	7,135	I	1982. 8. 18	東京山岳協会	北西稜			

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	5 座 1948.11. 生 (48才)	c.ガッシャーブルムⅡ d.コルジェネフスカヤ e.ハン・テングリ	8,035 7,105 7,010	P S S	1985.7.28 1988.7.30 1989.8.15	横浜蝸牛山岳会	南西稜 南東面 ソロマ		
35	坂原忠清 (35,902m) 5 座 1944.10. 生 (52才)	a.ムスターグ・アタN b.ヌン c.レーニン d.ハン・テングリ e.ポベーダ	7,184 7,135 7,134 7,010 7,439	C I S S S	1981.8.7 1982.8.15 1988.8.17 1991.8.10 1991.8.17	スピダーニエ スピダーニエ スピダーニエ 日本教員 "	北面 西稜 ラズジ ボグレ ヴァジ	初登頂	31
36	山中芳樹 (35,819m) 5 座 1950.9. 生 (46才)	a.コムズム b.コルジェネフスカヤ c.レーニン d.ハン・テングリ e.サトバント	7,495 7,105 7,134 7,010 7,075	S S S S I	1986.8.3 1986.8.9 1986.8.15 1989.8.15 1994.9.24	N C P " " 労山 労山	ポロド ツェト ラズジ ソロマ 北稜		32
37	川村晴一 (33,755m) 1947.12. 生 (49才)	a.クンバカルナ b.カンチェンジュンガM c.チョゴリ d.サガルマータ	7,710 8,586 8,611 8,848	N N C N	1976.5.11 1980.5.14 1982.8.15 1983.10.8	山学同志会 山学同志会 J M A 山学同志会	北壁 北壁 北稜 南東稜	初登攀 "O ₂ レス " O ₂ レス	33
38	八木原 圀 明 (33,215m) 1946.11. 生 (50才)	a.ダウラギリⅣ b.ヤルン・カン d.サガルマータ e.チョー・オユー	7,661 8,505 8,848 8,201	N N N C	1975.10.21 1981.5.9 1985.10.30 1993.10.12	カモシカ同人 H A J 植村直己物語 群馬県山岳連盟	南面 南東面 南東稜 北西面	日本人初登	22
39	戸高雅史 (32,823m) 1965.4. 生 (31才)	a.ナンガ・パルバット b.ガッシャーブルムⅡ c.ブロード・ピークM e.K2	8,126 8,035 8,051 8,611	P P P P	1990.8.18 1993.7.31 1995.7.19 1996.7.29	川崎教員 バイネニアソブ F O S "	南西稜 南西稜 西稜 南東稜	縦走 単独	71
40	遠藤由加 (32,430m) 1966.1. 生 (30才)	a.ナンガ・パルバット b.ガッシャーブルムⅠ c.ガッシャーブルムⅡ d.チョー・オユー	8,126 8,068 8,035 8,201	P P P C	1988.7.12 1989.7.12 1990.7.26 1994.9.25	高山研究所 高山研究所 イエティ同人	西面 北稜 南西稜 南西壁	A P	36
41	大谷映芳 (32,138m) 1947.4. 生 (49才)	a.ラカボン b.K2 c.クーラ・カンリⅠ d.チョー・オユー	7,788 8,611 7,538 8,201	P P C C	1979.8.2 1981.8.6 1986.4.21 1987.9.21	早稲田大学 早稲田大学 神戸大学 カモシカ同人	北稜 西稜 西稜 北西面	初登攀 " 初登頂	37
42	×小西政継 (32,048m) 1938.11. 生	a.クンバカルナ b.ダウラギリⅠ c.シシャバンマC e.マナスル	7,710 8,167 8,008 8,163	N N C N	1976.5.12 1994.10.1 1995.9.26 1996.9.30	山学同志会 シルバートール Y M C 登稜会	北壁 北東稜 北東稜 北東面	初登攀 55才 56才 57才	73
43	×斉藤安平 (31,431m) 1953.1. 生	a.ダウラギリⅠ b.ガウリシャンカールS c.マナスル d.アンナプルナⅠ	8,167 7,010 8,163 8,091	N N N N	1982.10.18 1984.10.19 1985.12.14 1987.12.20	カモシカ同人 J A C・東海 カモシカ同人 群馬県山岳連盟	北西稜 南東稜 北東面 南壁	初登攀 初登攀 冬期第二登 冬期初登攀	39

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
44	後藤文明 (31,285m) 1965.5.生 (31才)	a.プモ・リ b.サトバント c.チャー・オユー d.サガルマータ	7,161 7,075 8,201 8,848	N I C C	1987.10.13 1990.8.10 1993.10.8 1993.12.18	境町山の会 H A J 群馬県山岳連盟 "	南稜 北稜 北西面 南西壁	冬期初登攀	40
45	×二上純一 (31,166m) 1951.12.生	a.シア・カンリ b.バルトロ・カンリⅢ c.ムスターグ・アタ d.チョモランマ	7,422 7,350 7,546 8,848	P P C C	1979.7.30 1979.8.4 1981.6.30 1991.5.27	京都カラコルム " 京都カラコルム 貫田／二上	南西面 北東面 西稜 北稜	帰路死亡	41
46	重野太肚二 (31,100m) 1943.4.生 (53才)	a.プモ・リ b.ダウラギリⅠ c.チョゴリ d.プモ・リ	7,161 8,167 8,611 7,161	N N C N	1973.5.1 1978.5.8 1982.8.15 1989.4.21	登攀クラブ イエティ同人 J M A チーム・プモリ	南稜 南稜 北稜 南稜	初登攀 "O ₂ レス	42
47	鈴木孝雄 (30,865m) 1938.5.生 (58才)	a.レーニン b.コムニズム c.ガッシャーブルムⅡ d.チャー・オユー	7,134 7,495 8,035 8,201	S S P C	1984.8.5 1986.8.3 1990.7.26 1992.9.20	青田 九山同人 イエティ同人 カトマンズクラブ	ラズジ ボロド 南西稜 北西面	52才 54才	43
48	富田雅昭 (30,771m) 1956.6.生 (40才)	a.マナスル b.コルジェネフスカヤ c.コムニズム d.シシャバンマC	8,163 7,105 7,495 8,008	N S S C	1981.10.14 1982.7.31 1982.8.5 1982.10.12	イエティ同人 高山研究所 " 高山研究所	北東面 ツェト ボロド 北東稜		44
49	野沢井歩 (30,169m) 1964.8.生 (32才)	a.ヌン b.ダウラギリⅠ c.プモ・リ d.ティリッチ・ミール	7,135 8,167 7,161 7,706	I N N P	1992.8.13 1993.10.6 1994.10.21 1995.7.7	H A J ベルニナ山岳会 バーバリアン バーバリアン	西稜 北東稜 南稜 西稜		46
50	青田浩 (30,168m) 1958.1.生 (38才)	a.アンナプルナⅠ b.レーニン c.プモ・リ d.ナムチャ・バルワ	8,091 7,134 7,161 7,782	N R N C	1981.10.29 1984.8.2 1986.12.5 1992.10.30	イエティ同人 カモシカ同人 J A C	南壁 ラズジ 北東稜 南面	初登攀 初登頂	47
51	千葉孝義 (30,027m) 1945.9.生 (51才)	a.ダウラギリⅡ b.シシャバンマC c.レーニン d.レーニン	7,751 8,008 7,134 7,134	N C S S	1979.10.8 1982.10.12 1983.7.29 1985.8.6	カモシカ同人 高山研究部 J A C 高山研究所	Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ峰 北東稜 ラズジ ラズジ	縦走	48
52	保坂昭憲 (30,012m) 1948.2.生 (48才)	a.カンチェンジュンガM b.ヌン c.カルジャン d.サトバント	8,586 7,135 7,216 7,075	N I C I	1981.9.9 1983.9.14 1986.10.16 1990.8.10	H A J こまくさ山岳会 H A J H A J	南西面 西稜 西壁 北稜	初登頂	49
53	早川晃生 (29,941m) 1956.7.生 (40才)	a.ユクシン・ガルダンサール b.ヌン c.チャー・オユー d.サトバント	7,530 7,135 8,201 7,075	P I C I	1984.7.23 1986.10.3 1987.9.20 1990.6.12	東洋大学 東洋大学 カモシカ同人 ワニ眼クラブ	南西面 西稜 北西面 北稜		50
54	金沢健	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1988.7.22	カトマンズクラブ	ツェト		51

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(29,935m) 1945.10. 生 (51才)	b.コムニズム c.レーニン d.チャー・オユー	7,495 7,134 8,201	S S C	1988.7.30 1988.8.7 1992.9.21	カトマンズクラブ " カトマンズクラブ	ボロド ラズジ 北西面		
55	柳 沢 伸 子 (29,769m) 1950.10. 生 (46才)	a.コルジェネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ガッシャーブルムII	7,105 7,495 7,134 8,035	S S S P	1985.7.28 1985.8.7 1985.8.15 1988.8.8	女子登攀クラブ " " 女子登攀クラブ	ツェト ボロド ラズジ 南西稜		52
56	高 橋 純 一 (29,486m) 1948.11. 生 (48才)	a.コムニズム b.シア・カンリ c.ムスターグ・アタN d.リモI	7,495 7,422 7,184 7,385	S P C I	1977.8.8 1979.7.30 1981.8.14 1988.7.30	H A J 京都カラコルムC スピダーニェ H A J	ボロド 南西面 北面 南壁	初登頂	53
57	中 川 裕 (29,302m) 1960.8. (36才)	a.サトバント b.ヌン c.ムスターグ・アタ d.ムスターグ・アタ	7,075 7,135 7,546 7,546	I I C C	1990.8.11 1995.8.16 1996.8.13 1996.9.14	H A J H A J H A J 浪	北稜 西稜 西稜 西稜		
58	石 川 龍 彦 (29,280m) 1952.2. 生 (44才)	a.レーニン b.コルジェネフスカヤ c.コムニズム d.ムスターグ・アタ	7,134 7,105 7,495 7,546	S S S C	1983.8.2 1985.7.29 1985.8.6 1996.8.17	関 西 " " H A J	ラズジ ツェト ボロド 西稜		104
59	安 藤 昌 之 (29,280m) 1955.11. 生 (41才)	a.ユクシン・ガルダンサル b.コルジェネフスカヤ c.ディラン d.ウルタルII	7,530 7,105 7,257 7,388	P S P P	1984.7.25 1988.7.22 1989.7.12 1996.7.31	弘 前 大 学 弘 前 大 学 弘 前 大 学 カトマンズクラブ	南西面 ツェト 北稜 南稜	初登攀 初登攀	100
60	新 郷 信 廣 (29,250m) 1943.3. 生 (53才)	a.マモストーン・カンリ b.カルジャン c.リモI d.ピラミッド・ピーク	7,526 7,216 7,385 7,123	I C I I	1984.9.15 1986.10.14 1988.7.29 1993.4.24	H A J H A J H A J H A J	北東稜 西壁 南壁 北東稜	初登頂 初登頂 初登頂 初登頂	54
61	黒 滝 淳 二 (29,116m) 1952.10. 生 (44才)	a.テラムカンリIII b.コルジェネフスカヤ c.コムニズム d.レーニン	7,382 7,105 7,495 7,134	P S S S	1979.8.4 1988.7.22 1988.7.30 1988.8.7	弘 前 大 学 弘 前 大 学 " "	南東面 ツェト ボロド ラズジ	初登頂	55
62	鈴 木 正 典 (29,018m) 1961.12. 生 (35才)	a.ピラミッド・ピーク b.マナNW c.ディラン d.ムスターグ・アタ	7,123 7,092 7,257 7,546	I I P C	1993.4.26 1995.8.19 1996.7.24 1996.9.14	H A J 山 形 バーバリアン 浪	北東稜 南東稜 西稜 西稜	初登頂 初登頂 初登攀	
63	堀 弘 (28,991m) 1957.8. 生 (39才)	a.コルジェネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ディラン	7,105 7,495 7,134 7,257	S S S P	1988.7.22 1988.7.30 1988.8.7 1989.7.12	弘 前 大 学 " " 弘 前 大 学	ツェト ボロド ラズジ 北稜	初登攀	57
64	黒 沢 孝 夫 (28,744m)	a.コルジェネフスカヤ b.コムニズム	7,105 7,495	S S	1981.7.26 1981.8.4		ツェト ボロド		58

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(47才)	c.レーニン d.ハン・テングリ	7,134 7,010	S S	1983.7.30 1992.8.9		スクラ ボグレ		
65	×北沢真一 (28,259m) 1952.2. 生	a.コルジェネフスカヤ b.レーニン c.ハン・テングリ d.ハン・テングリ	7,105 7,134 7,010 7,010	S S S S	1986.7.24 1986.8.15 1989.8.6 1989.8.15	N C P " 労 山 "	ツェト ラズジ ソロマ "		59 帰路死亡
66	村上和也 (25,975m) 1955.3. 生 (41才)	a.ローツェ b.サガルマータ c.K2	8,516 8,848 8,611	N N P	1983.10.19 1983.12.16 1985.7.24	カモシカ同人 " H A J	西面 南東稜 南東稜	日本人初登 冬期第三登	60
67	竹内洋岳 (25,922m) 1971.1. 生 (25才)	a.マカルー b.チョモランマ c.K2	8,463 8,848 8,611	C C P	1995.5.22 1996.5.17 1996.8.14	J A C 立正大学 J A C	東稜下 北稜 南南東	初登攀	
68	×吉野寛 (25,626m) 1950.2. 生	a.ダウラギリI b.チョゴリ c.サガルマータ	8,167 8,611 8,848	N C N	1978.5.11 1982.8.14 1983.10.8	イエティ同人 J M A イエティ同人	南稜 北稜 南東稜	初登攀 " O ₂ レス	61
69	×禿博信 (25,626m) 1951.10. 生	a.ダウラギリI b.チョゴリ c.サガルマータ	8,167 8,611 8,848	N C N	1981.6.2 1982.8.15 1983.10.8	高山研究所 J M A イエティ同人	北東稜 北稜 南東稜	単独 初登攀O ₂ レス O ₂ レス	62
70	貫田宗男 (25,314m) 1951.3. 生 (45才)	a.ダウラギリV b.チョモランマ c.サガルマータ	7,618 8,848 8,848	N C N	1979.10.9 1991.5.27 1994.10.10	カモシカ同人 貴田ノ二上	南稜 北稜 南東稜		63
71	鈴木昇己 (25,144m) 1953.2. 生 (43才)	a.クンバカルナ b.カンチェンジュンガM c.サガルマータ	7,710 8,586 8,848	N N N	1976.5.10 1980.5.14 1983.10.8	山学同志会 山学同志会 山学同志会	北壁 北壁 南東稜	初登攀 O ₂ レス O ₂ レス	64
72	中村省爾 (25,120m) 1942.5. 生 (54才)	a.ダウラギリIV b.K2 c.チョモランマ	7,661 8,611 8,848	N P C	1975.10.21 1977.8.8 1988.5.5	カモシカ同人 J M A J A C	南面 南東稜 北東稜	第二登	65
73	井本重喜 (24,942m) 1963.1. 生 (33才)	a.ヒマチュリM b.チョー・オユー c.チョモランマ	7,893 8,201 8,848	N C C	1986.10.26 1994.9.27 1995.5.11	日本大学 日本大学 日本大学	南稜 北西面 北東稜	初登攀	66
74	坂下直枝 (24,907m) 1947.2. 生 (49才)	a.クンバカルナ b.カンチェンジュンガM c.チョゴリ	7,710 8,586 8,611	N N N	1976.5.11 1980.5.14 1982.8.14	山学同志会 山学同志会 J M A	北壁 北壁 北稜	初登攀 "O ₂ レス "O ₂ レス	67
75	星野龍史 (24,437m) 1967.11. 生 (29才)	a.チョー・オユー b.サガルマータ c.ウルタルII	8,201 8,848 7,388	P N C	1993.10.8 1993.12.22 1996.7.31	群馬県山岳連盟 " カトマンズC	北西面 南西面 南稜	冬期初登攀 初登攀	
76	吉田文江 (24,403m) 1955.10. 生 (41才)	a.ガッシャーブルムII b.ダウラギリI c.チョー・オユー	8,035 8,167 8,201	P N C	1988.8.8 1990.10.9 1993.10.12	女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 群馬県山岳連盟	南西稜 北東稜 北西面		68
77	×大西宏	a.ラカボシE	7,010	P	1987.7.3	明治大学	東稜		69

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(24,321m) 1962.5.	b.サガルマータ c.マカルー	8,848 8,463	N N	1989.10.13 1990.5.6	カトマンズクラブ 高山研究所	南東稜 北西稜		
78	山野井 泰史 (24,287m) 1965.4. (30才)	a.ブロード・ピークM b.ガッシャーブルムII c.チョー・オユー	8,051 8,035 8,201	P P C	1991.7.30 1993.7.31 1994.9.23	バイネニアソブ バイネニアソブ	西稜 南西稜 南西壁	初登攀A P	65
79	菊池 守 (24,180m) 1955.5. (41才)	a.ナンガ・バルバット b.ニンチン・カンサ c.チョモランマ	8,126 7,206 8,848	P C C	1985.7.8 1995.8.17 1996.5.13	福岡大学 福岡大学 福岡市山協	西面 南面 北稜		
80	吉田 裕一 (23,996m) 1970.8. (26才)	a.ガッシャーブルムII b.ジンミゲラ・チュリ c.K2	8,035 7,350 8,611	P N P	1993.7.22 1995.10.16 1996.8.12	東京農業大学 東京農業大学 J A C	南西稜 西稜 南南東	初登攀	
81	長久保 浩司 (23,996m) 1969.4. (27才)	a.ガッシャーブルムII b.ジンミゲラ・チュリ c.K2	8,035 7,350 8,611	P N P	1993.7.22 1995.10.16 1996.8.14	東京農業大学 東京農業大学 J A C	南西稜 西稜 南南東	初登攀	
82	鈴木 清彦 (23,885m) 1957.2. (39才)	a.ガウリシャンカールS b.シシャバンマM c.サガルマータ	7,010 8,027 8,848	N C N	1984.10.19 1989.4.16 1994.5.8	J A C 東海 愛知学院大学 愛知学院大学	南東稜 北東稜 南稜	初登攀	72
83	上野 幸人 (23,863m) 1954.1. (42才)	a.コムニズム b.ダウラギリI c.チョー・オユー	7,495 8,167 8,201	S N C	1986.8.2 1994.9.27 1995.9.29	高山研究所 秋田	ボロド 北東稜 北西面		74
84	林 孝二 (23,721m) 1951.9. (45才)	a.シシャバンマC b.ダウラギリI c.ムスターグ・アタ	8,008 8,167 7,546	C N C	1994.5.18 1995.10.6 1996.8.17	労山 労山 大阪労山	北東稜 北東稜 西稜		
85	大宮 求 (23,639m) 1949.4. (47才)	a.カンチェンジュンガM b.シシャバンマC c.サトバントW	8,586 8,008 7,045	N C I	1980.5.17 1982.10.12 1983.5.22	山学同志会 高山研究所 山学同志会	北壁 北東稜 北西稜	初登攀O ₂ レス 初登頂	75
86	高見 和成 (23,595m) 1945.5. (51才)	a.カンビレディオール b.ナンダデヴィW c.チョゴリ	7,168 7,816 8,611	P I C	1975.6.14 1976.6.15 1982.8.15	広島山の会 J A C J M A	北西稜 主峰～ 北稜	初登頂 東峰縦走 初登攀O ₂ レス	77
87	×小松 幸三 (23,579m) 1954.1.	a.ダウラギリIV b.ダウラギリII c.ダウラギリI	7,661 7,751 8,167	N N N	1975.10.21 1979.10.13 1982.10.18	カモシカ同人 カモシカ同人 カモシカ同人	南面 II・III・V縦走 北西稜	初登攀	76
88	中西 紀夫 (23,546m) 1958.3. (38才)	a.アンナプルナ・ダクシン b.ナンガ・バルバット c.チョー・オユー	7,219 8,126 8,201	N P N	1978.10.16 1983.7.31 1985.10.3	明治大学 富山県山岳連盟 カトマンズクラブ	南西稜 西面 北西面	初登攀 日本人初登 日本人初登	78
89	小笠原 岩雄 (23,436m) 1952.11. (46才)	a.ブロード・ピークM b.ガッシャー・ブルムII c.ジンミゲラ・チュリ	8,051 8,035 7,350	P P N	1991.7.21 1993.7.22 1995.10.17	東京農業大学 東京農業大学 東京農業大学	西稜 南西稜 西稜	初登攀	
90	吉田 憲司 (23,300m) 1953.1. (43才)	a.ハチンダール・キッシュ b.マモストン・カンリ c.K2	7,163 7,526 8,611	P I P	1982.8.4 1984.9.13 1985.7.24	金沢大学 H A J H A J	東壁 北東稜 南東稜	初登頂 初登頂	79
91	×日野 悦郎	a.ニルギリN	7,061	N	1981.5.7	福岡 G C C	東稜		80

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(23,270m) 1940.5.	b.チョー・オユー c.シシャパンマC	8,201 8,008	C C	1986.10.16 1992.5.6	北九州 J A C 福岡	北西面 北東稜	越境 52才	
92	桑原 巖 (23,185m) 1935.11. (61才)	a.ハン・テングリ b.シシャパンマC c.ダウラギリ I	7,010 8,008 8,167	S C N	1991.8.2 1994.5.19 1995.10.6	労山 労山 労山	ボグレ 北東稜 北東稜		81
93	飛田 和夫 (23,171m) 1946.1. (50才)	a.トリスル I b.ヤルン・カン c.ムスターグ・アタ	7,120 8,505 7,546	I N C	1978.9.28 1981.5.5 1994.8.18	H A J H A J H A J	南稜 南東面 西稜	初登攀 日本人初登	82
94	島方 健次 (23,040m) 1947.12. (49才)	a.ハラモシュ b.チャンツェ c.ブロード・ピークM	7,409 7,580 8,051	P C P	1978.7.22 1986.5.10 1988.7.27	昭和山岳会 J M A 昭和山岳会	北西面 東稜 西稜		84
95	平林 克敏 (23,014m) 1934.12. (62才)	a.アピ b.サイバル c.サガルマータ	7,132 7,034 8,848	N N N	1960.5.10 1963.10.21 1970.5.12	同志社大学 同志社大学 J A C	北面 南面 南東稜	初登頂 " 日本人初登	83
96	松林 公蔵 (22,983m) 1950.5. (46才)	a.カンベンチン b.ナムナニ c.シシャパンマC	7,281 7,694 8,008	C C C	1982.4.21 1985.5.26 1990.5.21	A A C K A A C K A A C K	東面 西面 北東稜	初登頂 " "	45
97	八嶋 寛 (22,979m) 1950.3. (46才)	a.トリスル I b.ヤルン・カン c.チョー・アウイ	7,120 8,505 7,354	I N C	1978.9.28 1981.5.9 1986.10.14	H A J H A J H A J	南稜 南東面 西稜	初登攀 日本人初登 初登頂	85
98	×小林 利明 (22,939m) 1948.12.	a.ダウラギリ I b.シア・カンリ c.バルトロ・カンリ	8,167 7,422 7,350	N P P	1978.5.8 1979.7.30 1979.8.4	イエティ同人 京都カラコルム "	南稜 南西面 北東面	初登攀	86
99	中島 俊弥 (22,848m) 1964.12. (32才)	a.ダウラギリ I b.ムスターグ・アタ c.ヌン	8,167 7,546 7,135	N C I	1991.10.11 1993.8.17 1995.8.16	昭和山岳会 H A J H A J	北東稜 西稜 西稜		87
100	×角田 不二 (22,760m) 1952.9.	a.トリスル I b.ヤルン・カン c.ヌン	7,120 8,505 7,135	I N I	1978.9.28 1981.5.9 1983.8.16	H A J H A J H A J	南稜 南東面 西稜	初登攀 日本人初登	88
101	田村 正勝 (22,732m) 1942.4. (54才)	a.ヌン b.ブロード・ピークM c.ムスターグ・アタ	7,135 8,051 7,546	I P C	1991.8.14 1993.7.21 1994.8.18	H A J わらじの仲間 H A J	西稜 西稜 西稜	51才	90
102	大谷 亮 (22,721m) 1959.9. (37才)	a.カンチェンジュンガC b.コルジュネフスカヤ c.レーニン	8,482 7,105 7,134	N S S	1984.5.17 1990.7.27 1990.8.6	J A C J A C "	南西面 ツェト ラズジ	日本人初登	91
103	駒宮 博男 (22,637m) 1954.5. (42才)	a.コムニズム b.シシャパンマC c.レーニン	7,495 8,008 7,134	S C S	1982.8.2 1982.10.10 1983.8.2	高山研究所 " 高山研究所	ポロド 北東稜 ラズジ		92
104	服部 徹 (22,500m) (26才)	a.ハンテグリ b.ポベーダ c.ブロード・ピークM	7,010 7,439 8,051	C C P	1994.8.10 1994.8.18 1995.7.19	 F O S	ソロマ Sイヌ N-C	縦走	93
105	倉橋 秀都	a.ハン・テングリ	7,010	S	1991.8.2	労山	ボグレ		95

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	1960.2. (36才)	b.ポベータ c.シシャバンマC	7,439 8,008	S C	1991.8.14 1994.5.18	労山 労山	ヴァジ 北東稜	日本人初登	
106	古関正雄 (22,407m) 1961.3. (35才)	a.コルジュネフスカヤ b.ヌン c.ダウラギリI	7,105 7,135 8,167	S I N	1991.7.27 1992.8.15 1993.10.6	横浜鍋牛山岳会 H A J ベルニナ山岳会	ツェト 西稜 北東稜		96
107	小泉章夫 (22,401m) 1955.11. (41才)	a.クンヤン・チッシュN b.ダウラギリI c.ヒムルン・ヒマール	7,108 7,167 7,126	P N N	1979.7.11 1982.12.13 1992.10.3	北海道大学 北海道大学 北海道大学	北稜 北東稜 北西面	初登頂 冬期初登頂 初登頂	94
108	岡林良一 (22,271m) 1951.11. (45才)	a.ヌン b.ナンガ・バルバット c.ハン・テングリ	7,135 8,126 7,010	I P S	1985.8.15 1987.8.19 1992.8.1	川崎教員 川崎教員 東農工大	西稜 西面 ボグレ		97
109	金子秀一 (21,946m) 1958.4. (37才)	a.レーニン b.レーニン c.マカールII	7,134 7,134 7,678	S S N	1989.8.16 1992.7.26 1992.9.25	 バーバリアン	ラズジ ラズジ 東稜		98
110	金子珠美 (21,946m) 1958.4. (38才)	a.レーニン b.レーニン c.マカールII	7,134 7,134 7,678	S S N	1989.8.16 1992.7.26 1992.9.25	 バーバリアン	ラズジ ラズジ 東稜		99
111	橋本康弘 (21,796m) 1954.8. (42才)	a.ギャラ・ベリ b.ラブチュ・カン c.ヌン	7,294 7,367 7,135	C C I	1986.10.31 1987.10.27 1991.8.14	H A J H A J H A J	南稜 西稜 西稜	初登頂 初登頂	101
112	燕昇司実 (21,757m) 1942.8. (54才)	a.スバンティーク b.ムスターグ・アタ c.ムスターグ・アタN	7,027 7,546 7,184	P C C	1992.8.15 1994.8 1996.8.12	神奈川ヒマ	南稜 西稜 西稜		
113	関根幸次 (21,756m) 1933.10. (63才)	a.サトバント b.ヌン c.ムスターグ・アタ	7,075 7,135 7,546	I I C	1990.8.10 1992.8.15 1994.8.19	H A J H A J H A J	北稜 西稜 西稜		102
114	三原洋子 (21,755m) 1941.5. (55才)	a.サトバント b.ムスターグ・アタ c.レーニン	7,075 7,546 7,134	I C S	1983.8.24 1986.8.16 1989.8.16	婆娑羅衆 西域研究会	北稜 西稜 ラズジ		103
115	8名 (21,734m)	a.コムニズム b.レーニン c.コルジュネフスカヤ	7,495 7,134 7,105	S S S	×井波美保、松永忠則、鴨川正昭、斉藤正、 入瀬透、横森健治、梶山正、				104
122	×山崎彰人 (21,721m) 1967.7.	a.クラウン b.チリン c.ウルタルII	7,295 7,038 7,388	C C P	1993.7.22 1994.7.19 1996.7.11	J A C 東海 岐阜大学 J A C 東海	東壁 北東稜 南稜	初登頂 初登頂 初登頂	
123	橋口徹 (21,667m) 1970.6. (26才)	a.コムニズム b.レーニン c.ギャジ・カン	7,495 7,134 7,038	S S N	1991.7.29 1991.8.5 1994.10.14	東海山岳会 " 信州大学	ポロド ラズジ 西稜	初登頂	
124	溝手康史 (21,465m) 1955.5. (41才)	a.ハン・テングリ b.ポベータ c.アクタシ	7,010 7,439 7,016	S S I	1991.8.2 1991.8.14 1993.8.6	労山 " 広島山岳会	ソロマ ヴァジ 南西壁	初登頂	114
125	花井修	a.クンヤン・チッシュN	7,108	P	1979.7.11	北海道大学	北稜	初登頂	103

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日				*
	(21,363m) 1952.1.22生 (44才)	b.バルンツェ c.ヒムルン・ヒマール	7,129 7,126	N N	1980.12.15 1992.10.3	北海道大学 北海道大学	南稜 北西面	冬期初登頂 初登頂	

- (注) 1) *印欄の数字は1995年12月末現在での順位
2) 氏名の前の×印は故人
3) 地域のNはネパール、Pはパキスタン、Iはインド、Cは中国、Sは旧ソ連
4) 標高については原則として平凡社刊「ヒマラヤ名峰事典」を用いたが、一部新しい情報のある山についてはその数値を採用した。

旧ソ連を除く30,000m以上

1. 山田 昇	14座	115,804m	1989死亡	33. 二上 純一	4座	31,166m	1991死亡
2. 尾形 好雄(48)	9座	69,497m		34. 重野太肚二(52)	4座	31,100m	
3. 重廣 恒夫(49)	8座	63,435m		35. 野沢井 歩(31)	4座	30,169m	
4. 田辺 治(35)	8座	63,038m		36. 保坂 昭憲(47)	4座	30,012m	
5. 山本 篤(34)	7座	56,942m					
6. 岩崎 洋(36)	7座	51,449m					
7. 尾崎 隆(44)	6座	51,012m					
8. 三谷統一郎(38)	6座	48,803m					
9. 今村 裕隆(37)	6座	47,795m					
10. 名塚 秀二(42)	5座	43,094m					
11. 加藤 保男	5座	42,523m	1982死亡				
12. 三枝 照雄	5座	42,015m	1989死亡				
13. 石川 富康(60)	5座	41,387m					
14. 谷川 太郎(29)	5座	40,510m					
15. 山本 宗彦(37)	5座	40,193m					
16. 谷口 守(48)	5座	39,800m					
17. 宮崎 勉(49)	5座	39,761m					
18. 佐藤 正倫	5座	39,161m	1993死亡				
19. 和田 城志(47)	5座	39,030m					
20. 川村 晴一(48)	4座	33,755m					
21. 八木原囃明(50)	4座	33,215m					
22. 遠藤 晴行(39)	4座	33,077m					
23. 戸高 雅史(35)	4座	32,823m					
24. 長尾 妙子(40)	4座	32,750m					
25. 田部井淳子(57)	4座	32,631m					
26. 遠藤 由加(30)	4座	32,430m					
27. 小西 浩文(34)	4座	32,314m					
28. 大谷 映芳(48)	4座	32,138m					
29. 小西 政継	4座	32,048m	1996死亡				
30. 近藤 和美(54)	4座	31,511m					
31. 斎藤 安平	4座	31,431m	1987死亡				
32. 後藤 文明(30)	4座	31,285m					

高令登頂者（実）ベスト20

1. 加藤 幸彦	チョモラーリ (7,326m)	63
2. 三角 朗	ハン・テングリ (7,010m)	62
3. 関根 幸次	ムスターグ・アタ(7,546m)	60
4. 斉藤 惇生	シシャパンマC (8,008m)	60
5. 原田 達也	シシャパンマC (8,008m)	60
6. 桑原 巖	ダウラギリ I (8,167m)	59
7. 石川 富康	マナスル (8,163m)	59
9. 中島 道郎	シシャパンマC (8,008m)	59
9. 山本 俊雄	チャー・オユー (8,201m)	59
10. 小西 政継	マナスル (8,163m)	57
11. 田部井淳子	チャー・オユー (8,201m)	56
12. 嶋村美美江	レーニン (7,134m)	56
13. 渡辺 玉枝	ダウラギリ I (8,167m)	55
14. 池田 錦重	ダウラギリ I (8,167m)	55
15. 我妻 研	ムスターグ・アタ(7,184m)	55
16. 井上 博之	ハン・テングリ (7,010m)	55
17. 鈴木 延隆	チリン (7,038m)	55
18. 野村 昌男	ラトナ・チュリ (7,035m)	55
19. 燕昇司 実	ムスターグ・アタN (7,184m)	54
20. 根津 皖一	ダウラギリ I (8,167m)	54

■ 寸 感 ■

最年少で世界の七大陸最高峰登頂を目指すという若者の壮行会に出席した。正直な感想としては、2,230mのオーストラリア大陸最高峰と南極大陸のビンソン・マッシューフやエヴェレストと一緒に並べる価値があるのだろうか？と思った。

それにしても大変な誤解が一人歩きしている。この壮行会には、在籍している大学の学長や教授、前ネパール大使、支援する企業の関係者の激励が続いたのだが、これらの人々は「ヒマラヤ登山」の現状ということを理解する場から遠くかけ離れた所にいるらしい。それらの人々の社会で、また新しい「ヒーロー」が誕生するらしい。何かおかし。

登山とは全く違うイベントだと感じた。

事務局日誌 (2月)

- 3日(月) クーラ・カンリⅡ隊費用送金
- 7日(金) ヒマラヤ304号発送
- 8日(土) 野口健チョモランマ壮行会 (山森)

- 12日(水) 立正大学チョモランマ登頂祝賀会 (於、ユーポート、山森、野沢井)
- 15日(土) ベンバ・ツェリン氏歓迎会 (於、高田馬場、山森、尾形、野沢井)
- 20日(木) Mr. サリーン死去の連絡入る
- 22日~23日 第35回日山協海外登山研究会 (於、大学セミナーハウス、山森、寺沢)
- 24日(月) 東京集会 (17名)
- 28日(金) 中国登山協会曾曙光生主席歓迎会 (於、南国酒家、山森、中川)

ヒマラヤ No.305 (4月号)

平成9年3月10日印刷 9年4月1日発行

発行人 稲田定重

編集人 山森欣一

発行所 日本ヒマラヤ協会

〒170 東京都豊島区東池袋4-2-7

萬栄ビル501号

電話 03-3988-8474

郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

- ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ/総重量6.7kg)
- パルスオキシメーター
(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店 : 日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先 : 株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階

TEL : 03-5245-0511 FAX : 03-5245-0510

(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

TREASURE TOUR



EXPEDITION & TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。



マウンテントラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-3574-8880

三井航空サービス代理店2452号

遙かなる旅



個人・グループの手配旅行、航空券の取り扱い専門デスク



キャラバンデスク TEL03-3237-8384

～地球の果てまであなたのキャラバンのお手伝い～

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。
～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米～

トレッキング・海外登山
シルクロード・秘境旅行
のバイオニア



株式
会社

西遊旅行

東京本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)1391(代表)

キャラバンデスク 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)8384(代表)

大阪営業所 〒530 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F ☎06(367)1391(代表)

カトマンズ営業所 JAI HIMAL TREKKING(P) Ltd. P.O. BOX3017 KATHMANDU. NEPAL ☎221707

運輸大臣登録一般旅行業607号

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店/〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- 新宿西口店/〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- 新宿南口店/〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェア館/〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店/〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店/〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(641)5707
- 高崎店/〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店/〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店/〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟ブラスカ店/〒950 新潟県新潟市天神1-1 ブラスカ3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店/〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店/〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店/〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店/〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店/〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店/〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店/〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外商部(メールオーダー)/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



ICI 石井スポーツ

事務所/〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004